



What is
Good
Service?

統合報告書 **2025**

Integrated Report

統合報告書 2025

Integrated Report

目次／編集方針

02	第1章 価値創造ストーリー	25	第3章 価値創造の基盤
03	企業理念体系	26	サステナビリティの推進
04	トーカ口の強みと、強みが活かされる分野	27	先進的皮膜開発と潜在市場の開拓
05	トーカ口の強みとビジネスモデル例 (半導体・FPD分野)	29	環境負荷低減への対応
06	価値創造の歩み	33	ものづくりの高度化と品質向上
07	価値創造プロセス	35	多様な人材の育成と活躍
08	第2章 価値創造の戦略	39	コンプライアンスの徹底
09	社長メッセージ	41	コーポレート・ガバナンス
13	代表取締役 専務執行役員メッセージ	43	役員一覧
15	取締役 専務執行役員 管理本部長メッセージ	46	社外取締役メッセージ
17	分野別の戦略・概況	48	第4章 財務・企業情報
21	開発・製造・営業・工場責任者 座談会	49	財務ハイライト
		50	非財務ハイライト
		51	6カ年サマリー
		52	マテリアルバランス
		53	会社概要／株主情報
		54	ネットワーク

編集方針

投資家はもとより多くのステークホルダーに当社グループをご理解いただくという目的で編集しました。

報告対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日
※一部、上記期間以外の内容も含んでいます

報告対象組織

トーカ口株式会社および国内外の連結子会社
(2025年3月31日現在)
※報告範囲が異なる事項については範囲を明記

参照ガイドライン

- IFRS 財団「国際統合報告フレームワーク」
- GRI (Global Reporting Initiative)
「GRI サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」など

将来の見通しについてのご注意

本報告書に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略等のうち、将来の業績に関する見通しは2025年3月31日時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えいただけますようお願いいたします。

統合報告書 2025のポイント

1. 社長が語る今後の展望 ▶9～12P

今年度最終年度を迎える中期経営計画の主要施策を振り返り、次期中計および2030年のビジョン「人と自然の豊かな未来に貢献する」達成に向けた展望を示しています。従業員一人ひとりの「グッド・サービス」の実践が豊かな未来への貢献につながるという社長の考えも紹介しています。

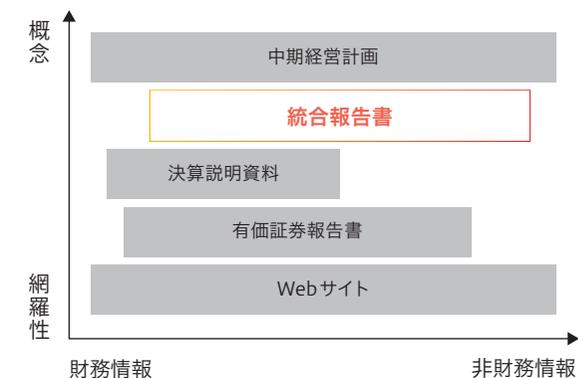
2. 「トーカ口の強み」を可視化 ▶4、5、13～16、21～24P

当社の独自技術と競争優位性を、図解を用いて明確に解説します。2025年6月就任の専務執行役員、および開発・製造・営業・工場責任者(執行役員)による座談会を通じて、強みの深化と持続的な成長戦略について多角的に掘り下げます。

3. マテリアリティと「従業員の声」 ▶25～42P

ESG経営の指針となるマテリアリティへの取り組み状況を、従業員のコメントを交えて紹介します。当社のサステナビリティ経営について、現場の視点から取り組みを紹介します。

本報告書の位置づけ



第 1 章

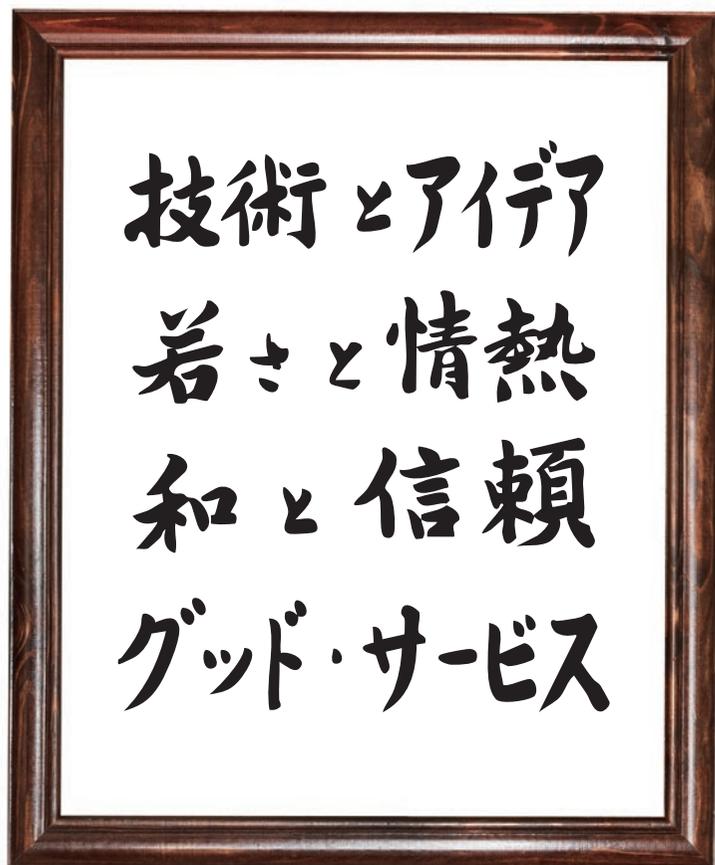
価値創造 ストーリー

- 03 企業理念体系
- 04 トーカロの強みと、強みが活かされる分野
- 05 トーカロの強みとビジネスモデル例
(半導体・FPD分野)
- 06 価値創造の歩み
- 07 価値創造プロセス



企業理念体系

社是



経営理念

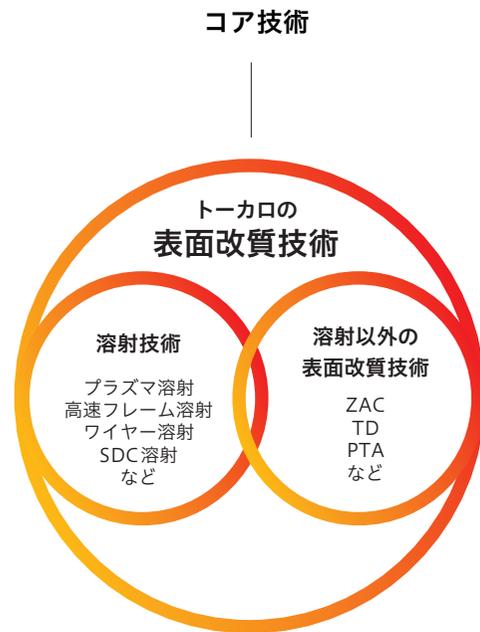
当社は、溶射加工を中核とする表面処理加工の専門メーカーとして「技術とアイデア」「若さと情熱」「和と信頼」「グッド・サービス」を社是として掲げ、株主、取引先、社員、地域社会等あらゆるステークホルダーとの良好な信頼関係を基礎に、表面処理皮膜が持つ省資源化、省力化、環境負荷の低減等の諸機能を通じて社会に貢献し、「高技術・高収益体質の、内容の充実した企業グループ」を実現することを経営の基本理念としています。

ビジョン(2030年の目指す姿)

「人と自然の豊かな未来に貢献する」

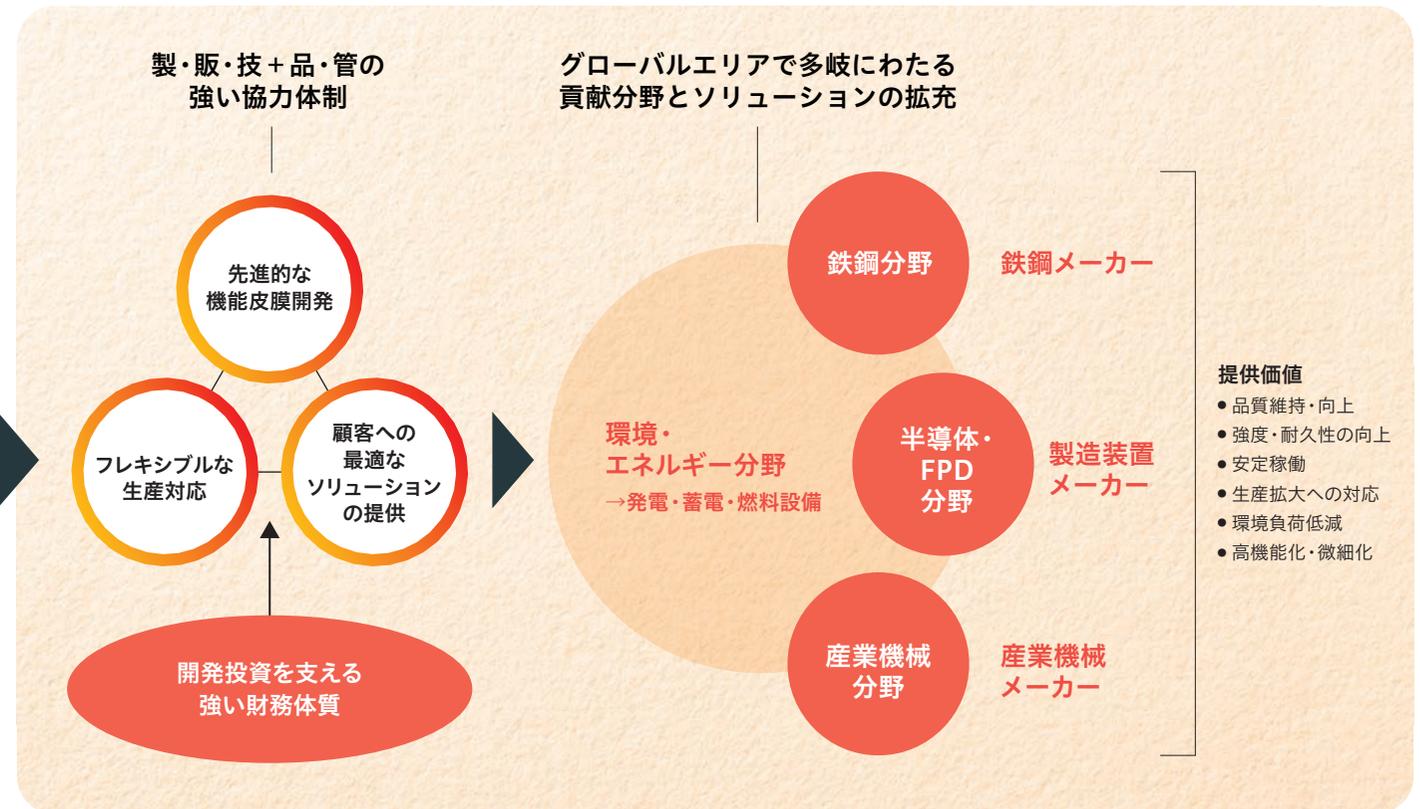


トーカロの強みと、強みが活かされる分野



さまざまな“機能”を付与する表面改質技術

当社は、溶射を中心とする表面改質の分野で世界トップクラスの技術力と実績を誇る加工メーカーです。溶射以外にも、化学反応や物理現象を利用した皮膜形成技術を保有しており、お客様のニーズに合わせた課題解決方法を提案しています。

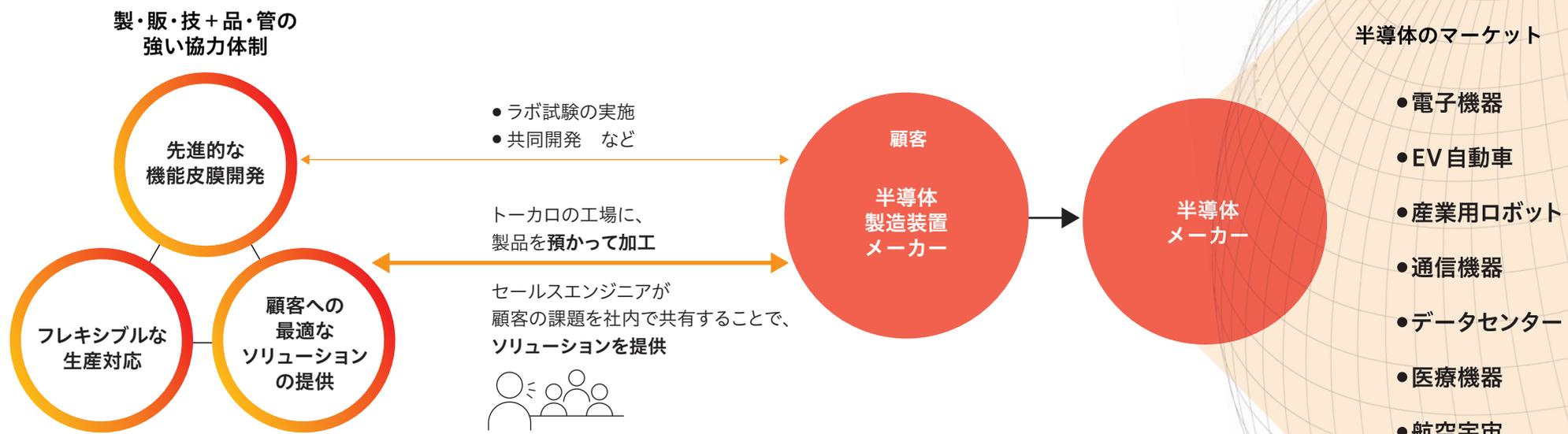


オーダーメイドの表面加工サービス例



トーカロの強みとビジネスモデル例(半導体・FPD分野)

技術パートナーとしてオーダーメイドの表面加工サービスを提供



溶射による表面改質

溶融または軟化した材料を吹き付ける

新たな性質を付与

金属やセラミックスなどの溶射材料

表面改質がもたらす効果

製品・装置の一部を表面改質加工することで得られる効果

- 製品の機能性向上
- 装置の稼働率向上
- 長寿命化、メンテナンスコスト削減
- 生産性の向上
- 環境性能向上や環境負荷低減 など

価値創造の歩み



鉄鋼分野の成長

鉄鋼線材の機械部品への溶射の受注が増加、そして圧延・伸線分野の設備の補修・長寿命化などのビジネスが軌道に乗り、その後鉄鋼以外の分野へ拡大。



省力化

産業機械分野の成長

航空機、製紙、高速鉄道、自動車産業へチャレンジなど、溶射技術の適用が一気に拡大。



環境負荷の低減

エネルギー分野の成長

大容量蓄電設備や水車などに溶射が採用され、環境技術として注目される分野での利用が進んでいる。

1980年代

溶射を中心に各種表面改質プロセスを続々操業

1990年代

溶射技術開発研究所を設立して開発力を強化。
1996年に株式を店頭公開

2000年代

半導体分野への参入で、業績を伸長、2005年に東証1部上場

2010年代

中国、タイ、米国、インドネシアで事業を開始。各地のニーズに応える

2020年代

東証プライム市場へ移行
サステナビリティへの取り組みが加速

2030年

持続的な成長を図る企業としての発展を目指す

2030年ビジョン

人と自然の豊かな未来に貢献する

紙パルプ業界

溶射を中心とする表面改質技術が製紙工場のドライヤーロール、各種製紙ロールに適用拡大。



省資源化



航空機業界

Nadcap (National Aerospace and Defense Contractors Accreditation Program・国際特殊工程認証制度) 資格取得。国内で数社しか取得していない難関の認証で航空機業界へ参入。

半導体分野の成長

営業・製造・開発陣の粘り強い取り組みが功を奏し、半導体・液晶分野へ参入。ゼロからスタートした半導体分野が、その後最大の成長ドライバーとなった。



高度化

新事業領域の拡大

農業機械部品の摩耗低減、医療機器の耐薬品性向上や血液付着防止など、多様な分野への応用が進んでいる。

価値創造プロセス

創出価値から資本強化へ還流

INPUT (投入資本)の強化目標・指標

OUTPUT (投入資本)の強化目標・指標

OUTCOME (創出価値)

価値創出のための目標

フレキシブルな生産対応力の確保	製造資本	グループ拠点 6カ国 37拠点	設備投資額 50億円
先進的皮膜の開発力強化	知的資本	売上高開発費比率 4.5% (24億円)	特許保有件数 274 (単体)
人財育成への投資の強化	人的資本	グループ従業員 1,516名 (2024年度末時点)	従業員1人あたり教育費 6.6万円 (単体)
顧客へのソリューション提案力強化		女性正社員比率 12.5% (単体)	女性管理職比率 3.9% (単体)
GHG排出量、水使用量、産業廃棄物排出量の削減	社会・関係資本	連結対象グループ6社 (2024年度末時点)	環境分野の受注金額 91億円 (単体)
成長投資を支える強い財務体質の維持	財務資本	売上高 542億円	経常利益 125億円
			ROE 13.9%

多彩な顧客を対象とする
全天候型経営でオーダーメイドの
表面改質加工による
ソリューションの提供

